

## 学 界 報 告

### 〔学 会 名〕

The Honor Society of Nursing, Sigma Theta  
Tau International.

The 28th International Nursing Research  
Congress

### 〔参加セッション名〕

Concurrent Sessions N: Promoting Evidence-  
based Practice Globally

### 〔発表題目〕

日本における EBP 推進のための国際的コラ  
ボレーション

An International Collaboration to Promote  
EBP in Japan

### 〔大会期間〕

平成29年7月27日(木)~平成29年7月31日(月)

### 〔場 所〕

アイルランド・ダブリン (The Convention  
Centre Dublin)

### ※記事

The Honor Society of Nursing, Sigma  
Theta Tau International (STTI) は、グ  
ローバルヘルスと看護の卓越性を向上するこ  
とを使命としている国際学会である。第28  
回国際看護研究学会のメインテーマは、  
“Influencing Global Health Through the  
Advancement of Nursing Scholarship” (看  
護学識の進歩によるグローバルヘルスへの影  
響) であり、グローバルヘルスを推進するた  
めの知識と実践の創出、エビデンスに基づく  
看護実践にテクノロジーを統合するためのア  
イディアと対策の情報交換、多職種連携の環

境に影響を与えるエビデンスに基づく教育と  
学習を促進するための研究戦略に関するディ  
スカッションを行うことが目的とされてい  
た。世界各国から約1,400名の看護研究者・  
リーダー・臨床実践者が参加して活発な発表  
とディスカッションが行われた。

以下では、「セッションN: グローバルに  
EBP (エビデンスに基づく実践) を促進す  
る」において口頭発表した研究の概要を報告  
する。

### 【研究目的】

本研究は、日本と米国の看護研究者の国際  
的コラボレーションによる、日本での EBP  
の採用と評価を促進することを目標として行  
われたものであり、そのプロセスと結果につ  
いてケーススタディとして報告するものであ  
る。

### 【プロセス】

日本の EBP 研究者チームは、EBP モデル  
の先行研究のレビューから EBP の実装モデ  
ルが特に重要であることを確認し、アイオワ  
大学看護学部と大学病院で開発されたアイオ  
ワモデルと EBP 実装モデルを国際的 EBP  
コラボレーションの枠組みとして選択した。  
日本の研究者は、国際的コラボレーションの  
開始の前に、アイオワ大学病院の EBP の米  
国の研究者を講師として招聘し、一方でアイ  
オワ大学病院で開催された“Advanced  
Practice Institute: Promoting Adoption of  
Evidence-Based Practice” (上級実践講習会:  
EBP の採用促進) に参加した。その後、  
EBP 実装のテキストとなる“Evidence-Based  
Practice Building Blocks: Comprehensive  
Strategies, Tools and Tips (Implementation

Guidebook)” (EBP 実装ガイドブック) の翻訳を開始し、国際的パートナーシップに関する合意書を作成した。

**【結果】**

本研究の主要な成果物は、EBP の適用のために開発された日本語版の様々な教材で、そのうちの1つが先の EBP 実装ガイドブックある。この成果物は、日本での EBP の適用と実装を促進するために、日本の看護界での必要性や特性、研究領域と実践の双方における応用可能性を反映するように再構成されている。特に日本の医療機関での EBP 適用を促進するための工夫として、EBP の実装プロセスを、臨床看護教育の一環として行われる臨床看護研究のプロセスに取り入れたことが特徴である。今回作成された成果物の効果検証を行うため、日本の回復期リハビリテーション病院・病棟で勤務する看護師を対象として、臨床看護研究において EBP 実装プロセスを取り入れたプログラムの介入研究を実施と評価を行っている。

**【結論】**

エビデンスに基づくヘルスケアの提供はグローバルな優先事項であり、それは国際的な組織と専門家の効果的パートナーシップとコラボレーションによって達成できる可能性が高まる。EBP 先進国である米国の既存の専門知識に基づいて、日本の看護界の特性に応じた EBP 実装モデルを適用することは、日本の臨床看護師のケアの質向上に貢献すると考えられる。

(松岡 千代)